

糸魚川－静岡構造線活断層帯の長期評価と長野県民の地震防災意識の現状

30016010 川窪恭子

長野県内の糸魚川-静岡構造線活断層帯に対し、国内初となる長期評価結果が1996年に公表され、大きな話題を呼んだ。本研究は、この長期評価結果の公表がその後の行政や住民の防災意識、具体的行動に与えた影響を明確にした上で、リスク情報の伝達上の問題点と有効な防災対策についての分析を行った。まず、各市町村の防災対策の現状調査を行い、長期評価結果の公表がこの活断層帯に沿った市町村にある程度影響を及ぼしている点を明らかにした。さらに、この断層帯周辺の住民を対象としたアンケート調査ならびに行政・自主防災組織に対するヒアリング調査を行った。その結果、長期評価結果の公表に有効性は認められたものの、具体的な防災対策にはなかなか結びついていないという問題点が浮かび上がった。